図書館ニュース

◆寄贈書案内

◉白鷗大学情報処理教育研究センターより

書名：教育と情報とメディア：
　　コロナ禍から見えてきたこと
著者：黒澤和人，下村健一編著
発行：2022年３月　学文社

教育・研究の分野における情報およびメディアの役割を考察します。

◉白鷗大学法政策研究所より

書名：大学英語教育と文学の新たなる
　　統合：日本の大学における英語
　　と文学の授業実践（白鷗大学法
　　政策研究所叢書）
著者：関戸冬彦
発行：2022年２月　日本評論社

具体的な授業実践を通じて、文学教材と英語教育との連携を探ります。

◉小川博士先生（教育学部准教授）より

書名：小学校理科を教えるために知っ
　　ておきたいこと：初等理科内容
　　学と指導法
著者：平田豊誠，小川博士編著
発行：2022年１月　東洋館出版社

小学校教員を目指す学生が、自信をもって理科を教えるための１冊。

◉岡田晴恵先生（教育学部教授）より

書名：秘闘：私の「コロナ戦争」全記録
著者：岡田晴恵
発行：2021年12月　新潮社

迫真の告白手記。「秘められた闘い」700日の記録です。新たな感染症で失われる命がひとつでも救えるように、との思いが込められています。

◉栗田誠先生（法学部教授）より

書名：公的規制の法と政策
著者：栗田誠，武生昌士編著
発行：2022年３月　法政大学出版局

「第６章 公的規制の下にある産業に対する法的規整の枠組：「規制法と競争法の『相互浸透』」のその後」ほかご執筆。

◉関戸冬彦先生（法学部教授）より

書名：TOEIC®テストリスニングを
　　ひとつひとつわかりやすく。
著者：関戸冬彦
発行：2017年11月　学研プラス

TOEIC L&Rテストのリスニングパートの演習型参考書。

◉福宿光一先生（元経営学部教授）より

書名：日本の駅前を訪ねて：東日本の
　　諸相
著者：福宿光一
発行：2022年６月　さきたま出版会

地理学者の駅前観察。変化に富む駅前の物語に魅せられた著者の集大成です。

書名：現実と言語の隙間：文学におけ
　　る曖昧性
著者：安藤聡，鈴木章能編著
発行：2022年３月　音羽書房鶴見書店

「小説における語りの円環と時間の超越：『ライ麦畑でつかまえて』と『異邦人』を対比して」ご執筆。

つぶやき

世にも珍しいというほど貴重な書物を稀覯（きこう）本という。本学が所蔵する『スンマ』（パチョーリ著）は、16世紀にヴェネチアで刊行された書物で、簿記会計学の原点という意味で文字通りの稀覯本であり、本学の至宝といっても間違いない。この宝が2015年９月の洪水で水没してから７年が経つ。なにせ500年近く前の書物であるから、その修復作業は困難を極めた。が、書籍修復の第１人者岡本幸治氏による渾身の手作業で、長きに亘った修復もこのたび何とか完遂の目途が立った。本学創学の魂を具現した本書の復活を、学内外を問わずぜひ多くの方々にお披露目したい。

	2022(令和４年)10月１日　発行
編　　集	図書館だより編集委員会
発　　行	白鷗大学総合図書館
〒323-8586	栃木県小山市駅東通り2-2-2
ホームページ	https://library.hakuoh.jp
印　　刷	第一印刷株式会社

図書館だより
HAKUOH
第59号 2022. 10
白　鷗　大　学

新書の定期購読を

法学部教授
藤　井　亮　二

書店調査会社のアルメディアによると、書店数は2000年の21,654店から2020年に11,024店と、20年間でほぼ半減しています。一方、平均売り場面積は119坪、15年前の1.5倍です。

書店の大型化が進む中で目を引くのは、新書の書棚が占めるスペースの広さです。以前よりもかなりの場所を取っています。学生の頃、新書は岩波新書、中公新書など種類が限られていました。その後多くの新書が創刊され、今では数十種類が棚を埋め尽くしています。

新書は1938年に創刊された岩波新書が嚆矢とされています。日中戦争が始まった翌年です。知的好奇心にあふれた読者の要求を満たす書籍であることは今も昔も変わりません。

大学卒業後、社会人になり仕事が忙しくなると余裕がないにもかかわらず無性に本が読みたくなります。不思議です。頭を休めてぼーっとすればよいのですが、逆に読書への意欲が高まるのです。そういう時に欲求を満たしてくれたのが新書です。法律、社会、政治などいろいろなジャンルが取り上げられ、コンパクトに書かれています。

好きな本だけを読もうと思っても、多くの新書が刊行されています。選ぶのが億劫で、特定の分野だけだと飽きるなぁと思っていたときのことです。「出版社を決めて、発行される新書をすべて定期購入している」という文筆家の読書法を目にしました。新規に発行される新書は１か月に３冊程度なので、金銭的にも読書量としてもそれほどの負担ではありません。なんと言っても社会・人文・自然科学系の話題について偏りなく定期的に提供してくれます。選んだのは『講談社現代新書』です。クリーム色の表紙に親しみを感じました。毎月、『講談社現代新書』が発行されるたびに書店から連絡をもらってえり好みせずに購入し、読み続けました。残念ながら、行きつけの書店からの連絡が途絶えがちになり、いつのまにか定期購読は断ち切れになりました。

数年間という短い期間でしたが、チャレンジングな試みだったと思います。最近は職場の環境も変わったので、再度試してみようと考えているところです。

図書館へいらっしゃい！

法学部教授
楪　　博　行

朝日放送テレビにより制作された、半世紀を超える長寿番組「新婚さんいらっしゃい！」に似たタイトルですね。今回お話しするのはこの番組に関するうんちくではなく、私が大学に入学した頃のずいぶん前の図書館でのできごとです。

大学に入学してびっくりしたのは、立派な図書館でした。閲覧室の空間は大きくてとても静かでしたが、図書館の入口には大きなテーブルといくつかの椅子があり、そこでミーティングができました。私はその大きなテーブルを定位置にして、授業などで知り合った友人たちと雑談に花を咲かせていました。

静かな閲覧室を使うのは、試験のときです。いつもの大きなテーブルで友人たちと試験の出題傾向について情報交換をし、模範答案作成の担当者を決めます。そして閲覧室の法学コーナーで各自担当科目の模範答案を作成しました。その後、秘密裡に（？）友人のアパートに集合してそれぞれの模範答案を確認。意見交換や、わからないところを教えあって理解し、模範答案を少しずつ変えて暗記をしました。これで、何とか単位を取ることができたのです。

卒業してずいぶん時が経ちましたから、当然ながら図書館も変わりました。蔵書検索は、蔵書カードからパソコンに代わりました。入館ゲートもできました。そして館内もずいぶん立派になりました。でも、未だに変わらないことがあります。それは深い人間関係をつくる場所ということです。図書館で共に過ごした友人たちとは、いつも一緒にいなくても、未だに連絡を取り合います。大学生だった頃を振り返ってみれば、専門知識を与えてくれるだけでなく、一生の思い出や深い人間関係をつくってくれたのは、図書館でした。その存在は大きかったです。

図書館は楽しい人生をつくる場所です。皆さんに声を大にして言います。

「図書館へいらっしゃい！」

身近な自然観察のススメ
～自然観察をより楽しくする植物図鑑～

教育学部准教授
小　川　博　士

1．身近な自然観察のススメ

コロナ禍で社会全体に閉塞感が漂う中、何かを始めて気分をリフレッシュしたいと考えている人も多いのではないでしょうか。そんな人に、私がおススメしたいのが「身近な自然観察」です。「自然観察」というと堅苦しい印象をもたれるかもしれませんが、「散歩しながら身近な自然と触れ合い、今まで気付いていなかった自然に目も向けてみる」くらいに捉えてもらえればと思います。

自然と関わることで精神疲労の回復やストレスの軽減といった回復効果も報告されています（芝田, 2013）。また、自然観察は大学構内や通学路、公園など、基本的にはどこでも行うことができます。ちなみに、私の研究室がある大行寺キャンパスには、ケヤキやカツラなどの樹木があります。また、春に目線を地面に落としてみると雑草がたくさん生えていることに気付きます。よく見てみると、スミレやナズナ、ホトケノザなどを観察することができました。

2．自然観察をより楽しくする植物図鑑

自然観察をしていると、ふと植物の名前やその特徴を知りたくなることがあります。ここでは、あると便利で自然観察がより楽しくなる植物図鑑を２冊紹介します。

１つめが林将之著「葉っぱで調べる身近な樹木図鑑」（写真左）です。１枚の葉の形から、身近な樹木の名前が簡単に調べられます。写真やイラストも豊富で子ども用としてもおススメです。２つめが稲垣栄洋著「雑草手帳」（写真右）です。普段よく見かける雑草の生き方にも触れている図鑑（手帳）で、目から鱗の情報が満載です。ポケットサイズなので持ち歩きに便利です。

これから紅葉の季節になります。植物図鑑を携えて、身近な自然観察をしてみてはいかがでしょうか。

引用文献

芝田征司（2013）「自然環境の心理学：自然への選好と心理的つながり，自然による回復効果」，環境心理学研究１（1），38-45